

《西 音楽づくり》 第4学年2組 音楽科学習指導案

指導者 水野 達

- 1 題材名 曲の気分を感じ取ろう
教材名 鑑賞 『パールギュント』第1組曲から 山の魔王の宮殿にて(グリーグ作曲)
表現 「赤いやねの家」(織田ゆり子作詞 上柴はじめ作曲)
音楽づくり 「まるまるまるのほん」(エルヴェ・テュレ作 谷川俊太郎訳)

2 題材について

本題材は、音楽の気分を感じ取り、思いや意図をもって表現したり、鑑賞したりすることをねらいとしている。児童はこれまでに、3学年の「ふじ山」で曲の山を感じ取って表現の工夫をしたり、4学年の「歌のにじ」で斉唱やリコーダーと合わせたときの響きの違いを味わったりしてきた。また、第3学年の「魔法の音づくり」では、楽器の音色の特徴を生かして簡単な音楽づくりを行った。

中学年の〔共通事項〕では、(ア)音の重なり、音階や調、(イ)変化が加わる。そこで、本題材では「変化」に焦点をあて、鑑賞、音楽づくり、歌唱表現の活動で題材を構成する。まず、主な旋律の反復と、速度や強弱の変化を感じ取る鑑賞の学習を始めに行う。音楽を形づくっている要素の働きと関連付けて学習を進めていくことで、音楽づくりや歌唱表現の時に、鑑賞で学習したことを生かせるようにする。音楽の変化は、楽曲の特徴を大きく左右し、表現を工夫する面白さを与えてくれるものである。音楽が変化することによって生み出される、音楽の盛り上がりや場面の变化などの面白さを十分に味わわせたい。それは、児童が音楽表現を工夫するときに、「こんな風に演奏したい」と考える原動力となるものであり、今後の児童の音楽活動をより豊かにするものと考えている。

これらの学習を経験することで、曲想の変化を感じ取って表現を工夫する中学校での表現活動の素地を養うことができる。例えば、中学校の全学年で行う「合唱表現の工夫」で、音楽の変化に注目して表現を工夫することができる。また、中学校第1学年「メロディー創作」で表現したいイメージをもち構成を工夫して音楽をつくる学習では、変化が生み出す面白さを生かして音楽をつくった経験が生かされると考える。

3 題材の目標

- ・音楽の変化による楽曲の雰囲気の違いや歌詞の内容を味わいながら、音楽を聴いたり歌ったりする。
- ・絵の色や動きをもとに、音色、リズム、強弱、速度、音の重なりなどを変化させて音楽をつくる。

4 研究の視点について

【視点2】小中連携を関連させた題材構成(指導計画)

○中学校へのつながりを考えた題材構成

本題材では、鑑賞で学習したことを音楽づくりと歌唱表現の学習に生かすことができるように題材を構成した。音楽づくりの学習を取り入れることで、変化が生み出す面白さを感じながら音楽をつくる経験をすることができる。実際に自分がつくり出す経験をすることで、音1つ1つに作曲者の思いが込められていることを実感することができる。このような経験をすれば、新しい楽曲に出会ったとき、楽曲の曲想を感じ取って豊かな表現を工夫しようとする態度を育てることができる。このような態度を育てていくことで、中学校でも思いや意図をもって豊かに表現しようとする能力を育てていけるだろう。

また、音楽づくりと歌唱表現で同じABA形式を扱い、Bで音楽が変化する面白さや、再びAが演奏されることで生み出される音楽のまとまりを感じ取らせ、楽曲の構成にも目を向けさせていきたい。これらの経験の積み重ねが、中学校第1学年「曲想の変化を感じ取ろう」の、『和声と創意の試み』第1集『四季』から『春』(ヴィヴァルディ)でロンド形式の構成に気を付けながら曲想の変化を感じ取って聴く学習や、中学校第2学年「曲の仕組みを理解して聴き取ろう」の、「交響曲第5番『運命』」(ベートーベン)でソナタ形式の仕組みに注目して楽曲を楽しむ学習に発展していく。

○イメージをもった音楽づくり

絵に描かれた丸の色や動きから感じたことをもとに音楽づくりを行う。感じたことに合う音を探して試行錯誤を繰り返す中で、児童は楽器の音色に親しみ、様々なリズムで演奏し、たくさんの音に接することができる。自分たちがつくった音楽を友達に説明したり、友達がつくった音楽の感想を伝えたりすることで、音と言葉を結び付け、「はずんでいる音」や「走っている音」など、自分のなかに音のイメージをつくっていくことができると思われる。このような経験をすることで、中学校で豊かなイメージをもった創作活動を行う力を育てていきたい。

中学校第1学年の学習指導要領に「表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること」とある。イメージをもつためには、様々な音素材と出会い、その特徴を知っていることや、実際に何かをイメージして音楽をつくった経験が必要である。本題材を通して、中学校での創作活動の基礎を築くことができる。と考える。

5 題材の指導計画 (9時間計画)

| 次 | 時 | ○学習内容 ・主な学習活動 | 評価規準 |
|-----|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一次 | | ねらい 音楽が変化していくことで生み出される面白さを感じ取る。 | |
| | 第1時 | ○『ペールギュント』第1組曲から「山の魔王の宮殿にて」を鑑賞し、音色、速度、強弱の変化や反復を聴き取る。 ・「山の魔王の宮殿にて」を聴き、音楽に合わせて体を動かし、速度や強弱の変化を感じ取る。 ・同じ旋律の繰り返しを探したり、音色、速度、強弱などの変化を聴き取ったりして楽曲の構造を理解する。 | 同じ旋律が反復されながら変化していく楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度①) |
| | 第2時 | ○『ペールギュント』第1組曲から「山の魔王の宮殿にて」を鑑賞し、音楽の変化が生み出す面白さを感じ取る。 ・「山の魔王の宮殿にて」を聴き、音楽に合わせて体を動かし、曲想の変化を感じ取りながら楽曲全体を聴く。 ・「山の魔王の宮殿にて」のよさを家の人に紹介する文を書く。 | 旋律の反復や音色、強弱、速度の変化が生み出す曲想とその変化を感じ取り、それを友達と話し合うなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを味わって聴いている。 (鑑賞の能力①) |
| 第二次 | | ねらい 絵の色や動きをもとに、音色、リズム、強弱、速度、音の重なりなどを変化させて音楽をつくる。 | |
| | 第3時 | ○音楽づくりの計画をたてる。 ・AB2つの音楽をつくることを知る。 ・Bの部分に使う絵を選び、グループを決める。 ・楽器の分担を決める。 | 絵から発想を得て、音色、リズム、強弱、速度、音の重なり、変化などを生かしてまとまりのある音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度②) |
| | 第4時 | ○Aの部分の音楽をつくる。 ・赤、青、黄の色ごとに音楽をつくる。 ・それぞれの色の音楽ができれば、グループで聴き合い合わせる。 | 楽器の音の特徴や音色、リズム、強弱、速度、音の重なり、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音の響きの組み合わせを工夫し、どのように音楽をつくるかについて発想をもっている。 (音楽表現の創意工夫①) |
| | 第5時 | ○音色、リズム、強弱、速度、音の重なりなどを変化させてBの部分の音楽をつくる。 ・変化させる要素を決めて、Bの音楽をつくる計画をたてる。 ・音色、リズム、強弱、速度、音の重なりを変化させて、表現を工夫する。 | |
| | 第6時(本時) | ○AとBをつなげて演奏したものを聴き合い、友達の工夫を見つけたりアドバイスをしたりする。 ・Bの音楽を完成させて、Aとつなげて演奏する。 ・変化がわかりやすいグループや、作り方迷っているグループの演奏を聴く。 ・真似したい工夫や、もっとよくするためのアドバイスを話し合う。 | |
| | 第7時 | ○作品を仕上げ、発表会を行う。 ・前時のアドバイスをもとに作品を完成させる。 ・友達の作品を聴き、工夫されているところやよかったところを伝える。 | 音色、リズム、強弱、速度、音の重なり、変化など音楽の仕組みを生かして、まとまりのある音楽をつくっている。 (音楽表現の技能①) |
| | | ねらい 旋律の特徴や歌詞の内容を感じ取り、表現を工夫して歌う。 | |
| 第三次 | 第8時 | ○「赤いやねの家」の旋律と歌詞を知る。 ・楽譜を見て、気づいたことを話し合う。 ・「赤いやねの家」を歌い、旋律と歌詞を覚える。 ・歌詞の内容を話し合いどんな様子を歌っているか考える。 | 歌詞の内容や旋律の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度③) |
| | 第9時 | ○「赤いやねの家」を工夫して歌う。 ・「赤いやねの家」を歌い、めあてを確認する。 ・楽譜を見て、ABA形式になっていることを確認する。 ・Bの部分は音が高くなっていくことや、歌詞の内容も変わっていることなどから、表現の工夫を考える。 ・「赤いやねの家」を曲想の変化を生かして歌う。 | 声の響きや速度、旋律や強弱を聴き取り、旋律の音の動きや強弱の働きが生み出す効果を感じ取りながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫②) 歌詞の内容や旋律の特徴から曲想を感じ取り、それにふさわしい表現で歌っている。 (音楽表現の技能②) |

6 本時の学習(6/9)

(1) 目標

絵から感じたことをもとに、音色、リズム、強弱、速度、音の重なりなどを変化させて音楽をつくる。

(2) 展開

| 学習内容と学習活動 | ○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Bの音楽を2グループ聴き、絵の様子が伝わってくる工夫や、もっと工夫できるところを話し合う。 | <p>○ 前時の学習内容を想起させ、音楽を特徴付けている要素(音色、リズム、強弱、速度、音の重なり)を変化させることを確認する。</p> |
| <p>絵の様子が伝わるように、工夫してBの音楽をつくろう。</p> | |
| <p>2 Bの音楽を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 絵に合うように表現を工夫する。 (音色、強弱、リズム、速度、音の重なり) <p>「どんな奏法がいいかな」 「どうやって重ねようかな」 「どうやって終わろうかな」</p> | <p>○ 旋律の重ね方やつなげ方を「音楽づくりの技」として掲示しておく。(・くりかえし・おしゃべり・リレー)</p> <p>○ 鑑賞で学習したことを掲示しておき、迷った時に見るように声をかける。</p> <p>○ なかなか音にできない時は、前時に話し合った絵からイメージした言葉を確認し、言葉に合う音を探すよう促す。</p> <p>○ 自分たちがつくっている音楽が、絵のどの部分を表しているのかを常に意識しながらつくるように助言する。</p> |
| <p>3 Bが完成したグループは、Aとつなげて演奏し、音楽の変化を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 絵の違いを表すことができているか。 | <p>○ 変化が聴き手に伝わりにくい場合は、マレットの種類や打ち方を変えたり、変化の度合いを大きくしたりするよう声をかける。</p> <p>○ 音楽があまり変化させられていない場合は、もう一度AとBの絵の違いから、変化させたい音楽の要素を考えるように促す。</p> |
| <p>4 ABAをつなげて演奏し、絵の様子が伝わってくる工夫を探す。</p> <p>「低い音の楽器だと暗い感じがする」 「だんだん速くなって回っているようだ」 「演奏の順番が変わって絵と合っている」 「音が強くなって迫力がある」</p> | <p>○ 絵の様子がよく伝わるグループの演奏を紹介する。</p> <p>○ どの絵を表しているか考えながら聴くように声をかける。</p> |
| <p>5 アドバイスや、友達の工夫をもとに、音楽を完成させる。</p> | <p>○ 真似したいと思った工夫を取り入れるように声をかける。</p> <p>◆ 楽器の音の特徴や音色、リズム、強弱、速度、音の重なり、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音の響きの組み合わせを工夫し、どのように音楽をつくるかについて発想をもっている。</p> <p style="text-align: right;">(音楽表現の創意工夫①)〈態度観察・発言〉</p> |

